

■■■ 外国人移住労働者対策協議会訪問記 ■■■

10月17日(日)~20日(水) に実施した「2010 KFC 韓国スタディツアー」の3日目、10月19日、ソウルの西大門にあるNGO、外国人移住労働者対策協議会を訪問しました。

1995年に発足した外国人移住労働者対策協議会は、外国人移住労働者、国際結婚による韓国移住者、その子どもを対象に支援を行っているNGOです。

ソウル中心部の高台にあるカトリック教会内の建物の一部に看板もなく事務所を置く外国人移住労働者対策協議会は、普通に歩いていても気づかないようなところですが、説明してくれた事務所長で司祭でもあるイ・ヨンさんの話は大変示唆をうけるものでした。

韓国は2007年に在韓外国人が100万人を超え、今年6月時点では120万人を超えるというように急激な変化を迎えています。予測では2020年には在韓外国人が300万人を超えるとのこと。以下は、イ・ヨンさんの話の概略です。

背景としては、韓国社会も日本同様低出産による少子高齢化が進んでいることがある。補完的労働力としての移住労働者が現在70万人、そのうちの34万人が中国朝鮮族である。その他に台湾の制度をモデルとした雇用許可制での就労者が16万人、「未登録者(オーバーstay)」が15万人いる。

かつては、外国人に対する同情的な視点が多かったが、近年変化している。韓国人の仕事を奪う、また犯罪を起こす存在という見方が広がっている。

韓国法務部による扇動的な発表や世界経済危機、韓国の保守化もあって移住労働者は、困難な状況に置かれている。社会的弱者への弾圧は、日本の昨年の法改正による外国人労働者管理強化などを見ても危惧される。韓国でも入管による指紋制度が復活するなど移住者への風当たりが強くなっている。

次に韓国に住む外国にルーツを持つ子どものことを尋ねたところ、下記の話がありました。

国際結婚13万人の子どもが2万4千人、移住労働者の子どもが1200人で大半がオーバーstayの子どもたちである。特に問題なのはオーバーstayの子どもたちには、健康保険もなく教育権も保障されていないため学校へ行けないことがある。

政府は、現在移住労働者を徹底的に定住許可しない方針をとっており、家族呼び寄せはさせていない。本質的に一番問題なのは移住受け入れ国(韓国)に同化させるのが問題、多文化社会に必要なのは、相互理解と文化の尊重である。

国際結婚した女性への同化圧力は、外国にルーツを持つ子どもへの同化圧力につながり、アイデンティティの混乱をもたらしている。皮膚が黒い子どもが韓国語しか話せないことや初等学校のバングラデッシュの子どもが韓国の国歌(愛国歌)を覚えるのにバングラデッシュのことは何もわかっていない。

血統主義の韓国、封建的な社会、男女平等社会でない状況、東南アジアの女性をブローカーが、人身売買のように連れてきている。貧困からの脱出を求めて来る女性と韓国人男性の結婚では互いの理解が難しく国際結婚の離婚率が高い。

近年、日本に比べ、外国人の受入政策を展開しているように見える韓国でも問題は山積みのようにでした。(金 宣 吉)

◆モンゴルの音楽と文化/韓国チャンゴ体験

11月13日（土）の研修会はモンゴル音楽とチャンゴ体験の2部構成でした。午前中は2000年に内モンゴルから日本に来られ、現在、馬頭琴の奏者でもあるスーホ氏による演奏でした。初めてみる馬頭琴の形に遠い昔、国語の教科書で習ったことがよみがえり、懐かしくなりました。その馬頭琴からかもし出される音色はゆったりと時が流れるようなやさしさやあたたかさ、また時に力強さを私達に想像させてくれました。モンゴルの空の青さや大草原の大きさ、その輝く緑まで連想させる程の音色を持っています。スーホ氏が演奏する曲から、今のは馬のかける音を、草原を風が吹きわたっている音などを感じることが出来ました。日本にしながら馬頭琴の音色の素晴らしさを体感できたことをとても感謝しています。その後、関谷氏によるモンゴル音楽を聞きました。関谷氏は阪神淡路大震災時、どこの国よりもいち早く支援物資を届けてくれたモンゴルの人達へ何かお返しが出来ないかと会社をあげてモンゴルの子ども達へ多くの図書を送り続ける活動をされています。そしてご自身が音楽が大好きだったこともあり、現在は、モンゴルで出会った人々やご自分の感じた気持ちを歌にのせて、数名の方々とバンド活動をされているそうです。その関谷さんの作った詞や曲は、どれもモンゴルを愛している気持ちがあらわされていて、まだ行ったこともない私達でさえ、モンゴルのあたたかさを素直に感じる事ができるものでした。次は韓国のチャンゴ体験でした。これも参加人数が少なかったのですが、講師の朱良枝氏は非常に分かりやすくていねいにチャンゴの音の出し方やリズムのとり方を教えてくれました…が…、何とんでも私達のこの頭のかたさゆえ、思うように手が動かずチャンゴ独自のかもし出す音には、ほど遠いものだと思え、体験者同志納得せざるを得ない状況でした。しかし、朱良枝氏のねばり強い指導のおかげでとりあえずはそれなりの音になったかなと皆でかばい合ったような時間を過ごしました。（笑）

何でもやってみると、その難しさに苦戦しながらも、少しでも本来の音色に近づけたときのうれしさは子どもに帰ったようでもありました。今後音楽ワークショップのような機会があれば多くの人に是非その文化を肌で感じてもらいたいと思います。きっと音楽がきっかけになって私達と身近なモンゴルや韓国の国をもっと知りたいと思う気持ちがめばえるかもしれません。またそうなればと願うばかりです。

（枝木 真紀子）

■■■KFC日本語プロジェクト■■■

◆ベトナムの歴史と現在

10月9日のKFC研修会は、神戸定住外国人支援センター(KFC)中村道宏副理事長の講演でした。中村副理事長は日本ベトナム友好協会の副会長でもあります。中村副会長お手製の冊子「ベトナムはこんな国」が参加者に配られました。この冊子の題目を「ベトナムはこんな国」とした所以は、最近の日本では外国人を受け入れるときに「多文化共生」を謳うようになってきたので、その外国がどんな国なのかを知りたいと思う気持ちにこたえるため、と副会長は話を始められました。そのお話を、以下の通り時代の流れの順序で紹介いたします。

紀元前2世紀から約千年の中国支配時代にベトナムにも儒教思想が浸透し、その影響でベトナム人家族の結束は非常に強い。その傾向は現在にも続いている。

1964年の米国による北爆が開始された。それ以降、日本国内ではベトナム反戦の気運が次第に高まった。1972年に正式な国名は「ベトナム社会主義共和国」となったが、その社会主義の内容はベトナム独特のものである。1975年にサイゴン(現ホーチミン市)が解放された。その直後に初めてベトナム訪問した中村副会長のベトナム訪問回数は50回を超える。

人口抑制政策は「ゆるい二人っ子政策」ともいわれる制度がとられている。子供の学校教育はベト

ナム語(ハノイ弁)で行われるが、義務教育ではなく、各家庭がその責任で学校に通わせている。小学校は5年、中学校は4年。

2年間の兵役は大学に進むと免除される。

1986年に始まったドイモイ(刷新)政策は、経済面から始まった。市場経済の導入と対外開放を柱にしたベトナム的社会主義の実現、重工業優先から農業中心へ、国際分業・国際協力に参入を目指した。

国の指導者たち(国家元首、国会議長、首相、共産党書記長)の間で意見の相違が見られないのは大きな特徴だと言える。これは関係者間の協議が徹底的に行われているからであろう。

「国のことは共産党に任せておけば大丈夫」との考えが国民の間に広く根を下ろしている。

5年に1回国會議員選挙があるが、投票率が異常に高い。これは代理投票が認められているからではないか、との見方もある。

国の広さは日本の九割、人口は8500万人。民族はキン族が87%を占める一方、少数民族数が53もある。人口の約九割がベトナム語を使用している。首都は北部のハノイ。宗教は、大乘仏教80%、カトリック7.4%、その他となっている。

北部の気候は亜熱帯気候(微妙な四季あり)、南部は熱帯モンスーン気候(11月~4月が乾期)。ベトナムのエアコンには暖房機能がないので、北部ベトナムの冬は日本人には過ごしづらいときがある。国民性は北部の人たちが計画的、勤勉であるのに対して南部はのん気、陽気である。

2002年の貿易相手国は、輸出は日本16.7%、中国9.4%、アメリカ7.1%、シンガポール7%、輸入はシンガポール15.3%、日本13.5%、台湾12.4%、韓国11.6%、中国9.9%である。

新幹線を作るのは時期尚早であるとの判断が国会でなされた。

最後に副会長はベトナムに関する市販書籍数冊を現物紹介され、日本ベトナム友好協会に申し出てくだされば貸すこともできる、と講演を締めくくられました。(ニュース係 操田 誠)

◆韓国スタディツアー開催

1日目 (10月17日)

昨年末の懇親会の席で、韓国文化体験の旅行がしてみたいという話がでました。これを受けて、金理事長の企画で今回の韓国旅行が実現しました。

朝鮮王朝の発祥の地、全州で韓国の美味と伝統文化の体験をしようという旅です。KFCのメンバー総勢8名、韓流ドラマにはまっている人、はまっていた人、韓国語を勉強している人、勿論はじめての人も含めて和気あいあいの楽しい旅になりました。何でも「ケンチャナヨ」(大したことない、気にしないで!)の韓国の民族性に合わせて、私たちも計画通りでなくてもOK、自由行動も含めて素敵な、心に残るスタディーツアーができました。

金浦空港から大型デラックスバスで(マイクロバスと値段が変わらないとか)、約3時間、瓦屋根の1,000年も前の家が立ち並ぶ、どこかなつかしいような街並みの全州に到着。宿泊やど、伝統韓屋民宿「雅世軒」に入りました。

李朝風のインテリア、オンドルの部屋、伝統的な障子戸や家具、華やかな色彩の寝具などドラマに出てくる民家そのまま、みんなおおはしゃぎ。ゆっくりするのはあとで、ということで、早速町の散策、そして夕食に出かけました。初日の夕食は韓国三大名菜の一つ、無形文化財にもなっている全州ビビンバです。ごはんの上におかずを彩りよく並べて、よくかき混ぜて食べるどんぶりごはんです。具は本来5種類とされ、おかずの配置には陰陽五行説の思想が反映されているといいます。ビビンバだけでなく、前菜もたくさんついています。コチュジャンやゴマ油の調味料を少量かけて金属製の匙でまぜて、まぜて。混ぜるのも文化のようです。さすが本場、野菜をたくさん食べることができて、健康食。おいしかったです。長い歴史を誇る全州では伝統食を

大切にすることが自然に息づいているのでしょう。（谷先 晴代）

2日目(10月18日)午前

早朝、中庭で女主人がカヤグム（琴に似た民族楽器）を弾いている。いい音色が古い韓屋宿に響き、気持ちのいい朝を迎えた。

朝食後、町の市場散策へ。ホームセンターのようなものがなく、寝具屋、苗屋、金物屋乾物屋などとそれぞれの店が元気に商売を営んでいる。

買い物で少し遅れた金さんが、サンタクロースのように大きな袋を抱えて現れたのには驚いた。ご家族やハナの会からの頼まれものだという。袋はその後もどんどんふくらんでいった。（宇野 祐子）

2日目(10月18日)午後

7百余りの古風な瓦屋根の家がつらなる韓屋村で韓紙工芸体験をしました。事前に情報がなかったものでどんなものを作るのか楽しみでもあり、又うまく作れるものか少々心配でもありました。わいわいがやがやの中で先生の手を借りながら写真のような電気スタンドが出来上がりました。スタンドの枠に千年は持つと言われる伝統韓紙を貼り付けたのです。

糊を付けて張っていくのですがそれぞれ個性的なしわができ、漂白剤の多少で黒いもの赤茶のものなど色も様々に出来上がりました。

まだ灯がつかない状態ですが、これを見るたび楽しかった韓国旅行を思い出させてくれそうです。（高橋 博子）

2日目(10月18日)晩

全州最後の晩は待ちに待ったマッコリと韓国式のおつまみの食事です。マッコリは白くにごった甘酒のように見えるので、ドロドロして飲みにくいかなと思ったのですが、上ズミを使ったものと濃いどぶろくのようなものと2種類ありました。

どちらも飲んでみるとのどをスーッと通ってとても飲みやすいものでした。

甘すぎずドロドロせず、濃くなく本当にスーッと通過するんですよ（これは私だけかな！）。是非一度飲んでみてほしいです。

それも全州のマッコリを？ そのマッコリを注文すると韓国式のおつまみがついてくるんです。おつまみというので、お酒に少しついているものと思ったら大間違いです。テーブル一杯に並んだ魚の鍋物、キムチ、チヂミ、野菜の和え物等々、数えきれないぐらいで、おつまみとは言えないものでした。

一皿なくなれば次々追加したように出てくるんです。いくら食べても、ベルトコンベアーにのったみたいに出てくる様は本当に信じられないです。マッコリと一緒に食べると、とてもおいしくて、お腹が一杯になって、ホロ酔い気分も重なって、全州の美食を満喫した忘れられない夜になりました。（枝木 真紀子）

3日目 (10月19日)

午前<バス移動> 午後<NGO訪問+自由時間>)

3日目、全州の宿でのたっぴりの朝ごはんを頂いた後、前述の超デラックスバスでソウルへ戻りました。ホテルにチェックインしましたが、NGO訪問まで時間があったので、自由行動となりました。

4グループほどに分かれましたが、後日グループごとに行き先を教えてくださいました。さて、どなたがどんな行動をされたんでしょうか？

Aグループ：：：新羅免税店→新羅ホテル→（NGO訪問）→ロッテ免税店→明洞通り【模範タクシーに定員オーバーで乗り込みました！これもソウルならでは？】

Bグループ：：：地下鉄で景福宮(せっかく行ったのに休みでした)→南大門市場→（NGO訪問）→明洞通り→鐘路【最終日の朝には早起きして南山公園へも行きましたよ】

Cグループ：：：鐘路の楽器店→光花門→（NGO訪問）→東大門→BOOKCENNTER【頼まれた買物に全時間を費やしました、もうヘトヘト】

Dグループ：：：何年かぶりに会う懐かしい友人と再会【もちろん、頼まれた仕事もしましたよ】

ここでストイックに生きるという方が難しい街、ソウル！！食欲と物欲を掻き立てる食の多様さと品物の豊富さ、安さ。

特に何年ぶりかの円高の時期と重なったこともあり、胸の内にしまっておいた欲望は即行動にうつり、私たちはそれぞれ自由時間を満喫したのです。 （奥 優伽子）

おわりに（添乗員より）

皆様！アンニョンハセヨ（^^）ケンチャナヨツアーは満喫していただいたでしょうか？！私も緊張しながら望んだツアーでしたが、優しい方たちで癒されながら共に時間を過ごすことができました。韓国の伝統、文化、人、食・・・似ているようで違う。違う驚きや魅力を感じていただいたでしょうか。民族の息遣いを感じられる全州や、NGOとの交流、ソウルのパワー・・・具沢山のツアーだったと思います。あとは人の温かさを感じていただきたかったです。まだまだ見ていない魅力は沢山です！今回に懲りず（笑）また韓国の魅力を感じていただければ添乗員カクも嬉しい限りです。フフフ。では皆様、何があっても「ケンチャナヨ～」で頑張ってくださいませよう♪（郭典子）

■■■KFC外国にルーツを持つ子どもの学習支援■■■

◆在日外国人親子の防災学習について

震災を経験していない在日外国人親子に、阪神・淡路大震災の歴史を理解してもらうとともに、災害に対する備えの必要性を考えてもらうことを目的に、10月17日にKFCで「在日外国人親子の防災学習」を行いました。

この活動では、神戸市立こうべ小学校国際教室とこうべ子どもにここ会、そして翻訳スタッフ（タカログ語、ベトナム語、スペイン語、英語、中国語）、通訳スタッフ（タカログ語、ベトナム語）や学習者の家族や多くのボランティアスタッフの協力を得ました。全部で52名の様々な国籍の人が参加しました。

当日は「人と防災未来センター」を見学してからKFCで炊き出し体験をし、ゲーム大会も開きました。

「人と防災未来センター」では、まず語り部の震災時の体験談を聞き、1.17シアターで震災の再現フィルムを鑑賞しました。大震災ホールでドキュメンタリー映像をみて、展示フロアを見学した上、家具を使った地震実験実演も見ました。最後にこころのシアターで「葉っぱのフレディ」という3D映像を鑑賞しました。震災の怖さと災害時の大変さを実感でき、地震に備える必要を十分に学びました。

昼過ぎにKFCに着いて、水餃子の炊き出し体験をしながら食事を取りました。メニューは、i 水餃子（肉アンとニラ卵アンの二種類）、ii おにぎり（焼きおにぎりとお栗おにぎりの二種類）、

iii 焼きそば、iv 飲物とお菓子などです。

お腹も満足したところで、ゲーム大会を行いました。スタンプラリー形式で、スタッフが用意した6種類のゲーム（i 卓球、ii オセロ、iii ジェンガ、iv おりがみ、v わなげ、vi けん玉）を回って5つ以上クリアして担当スタッフからスタンプを集めると「賞品GET券」になるという仕組みです。いろんなゲームを楽しみました。

最後に、一同輪になって、「地震が起こったらどうするか」という話をしてもらって、ダンゴムシのようにまるくなって頭を守ることなどを学び、さきほどの「賞品GET券」と引き換えに防災グッズを渡しました。一人一人に感想を聞き、充実した一日は終了しました。子どもたちは、「震災の映像は怖かったです」「震災にあった人々はかわいそうでした」「たくさん知り合いができて楽しかった」「餃子おいしかった」「3D映像は面白かった」と感想を述べてくれました。

このように今回の参加者は神戸の震災とその後の歴史と地震に備える必要を学ぶことができました。また、これをきっかけとして多くの外国人の子ども同士や親同士が交流出来たことも意味深いと思います。ただし、今後の自然災害の時に如何に対応していくか等細かいところまでは、この短時間のプログラムでは、盛り込めないというのが実感です。参加者が、今回の活動をきっかけに自主的に地震対応について学ぶようになって頂けたら幸いです。

最後に、参加者の皆さまとボランティアの皆さま、御協力御支援に感謝の意を伝えたいです。おかげ様で有意義な防災学習になったと思います。大変ありがとうございました。

(フフデルゲル)

◆就職に役立つパソコン講座

仕事探しに役立つ外国人の為のパソコン講座を9月12日、9月19日、9月26日、10月3日に2コマずつ（13：00～15：00と15：30～17：30という2コマ）行いました。参加者は女性7名であり、スタッフ体制はインターン2名、ボランティア2名を入れ6名でした。以下は本講座に参加したインターンと参加者の感想文です。

私たちは、外国人のためのパソコン講座に来て下さった方々のサポートをする役割として今回参加しました。受講者1人の方に私たちが1人サポートとしてつき、分からない所があれば説明をしながら先生の授業を受けていたのですが、サポートする事がとても大変だという事を知る事が出来ました。なぜなら、パソコンを触る事もキーボードをうつという事も初めてという方など様々な方がいて1からのスタートという方もいたので、教える難しさは分かっていたつもりでしたが、私たちが思っていた以上に教えることが難しく、どのように伝えれば相手に分かりやすいのか手探り状態でした。でも受講されている方々はとても真剣に取り組んでいらっしやって、私たちのあまり上手ではない教え方にもきちんと耳を傾けて下さり、一生懸命取り組まれていました。説明した内容を忘れないようにメモをとっていたり、休憩時間にも私たちに質問をしてくれたりして必死に覚えようとしてくれてとても嬉しかったです。その様子を見て、伝え方が難しいものであったとしても伝える努力をして、分かるまでゆっくり何度も教えることが大切なんだと思いました。パソコン講座を通して私たちが多くの事を学ぶ事が出来ました。人に教える難しさは思っていたよりも大変でしたが、私たちの説明で分かってくれた時や「あなたの説明でわかった」と言われた時はとても嬉しく、充実感で満たされました。最後の授業の後にパソコン講座に参加して下さった方々との交流もあり、話す機会がなかった方々ともたくさん話す事ができ、多くの人たちと交流する事ができてとても嬉しかったです。

(甲南女子大学多文化コミュニケーション学科山村 まどか、谷本 愛実)

9月12日から8回に渡り「外国人のためのパソコン講座」が開かれました。

参加者は、日本に来たばかりの人から19年も日本に在住している人まで参加しました。最初、怖々聞いていた私は「ホームページを見てみよう！」の第1課の説明をし始めた砂子先生の姿を今でも鮮明に覚えています。

先生の説明はとても分かりやすく、テキストも理解しやすいものでした。砂子先生の指導のおかげで、パソコンの世界にうまく入れたと思います。そしてボランティアの皆さんのサポートのおかげで、私たちは不安を感じることなく、とてもスムーズに進みました。求人サイトを活用したり、履歴書も作ってみました。初めてWORDで作ってみましたが、内容は複雑であり、学歴、職歴の欄にちょっと苦労しましたが、ボランティアの人と相談しながら、立派な履歴書が出来たと思います。

パソコン講座の中でEXCELと名刺作りが一番気に入りました。EXCELの使い方を学びながら、いろいろな事ができるのが分かりました。そして自分の名刺ができた時、子どものように喜びました。とても楽しかったです。

砂子先生とボランティアの皆さん、それからこの講座にかかわったKFCの皆さんに感謝します。(小西 タイシア)

■■■ ハナの会 ■■■

◆敬老会

9月20日(月)と21日(火)の2日間、ハナの会では毎年恒例の「敬老会」を開きました。今年は2日共に、以前にも来て下さった事のある方に来ていただきました。お一人は柴切鶴吉さんです。17歳から長唄を始められ、津軽三味線に民謡にと、この道66年の方です。今は「ボケ防止のために」と慰問活動をされている、83歳の元気な方です。三味線で懐かしの歌謡曲などを伴奏して下さり、最後はアリランも弾いて下さいました。「ここに来ると元気をもらって幸せになる」と言って下さいました。

もうお一人は山下鶴靖さんです。吟詠家であり、演歌や歌謡曲もこなす、素晴らしい歌唱力の方です！持参のテープの伴奏で美声を聞かせて下さいました。オモ二達はその迫力に圧倒されていたようですが、おしゃべりも楽しく、午後のひと時を盛り上げて下さいました。

また、21日には、韓国青年商工会の金成男会長を始めとした5人の会員の青年が来て下さいました。豪華賞品(韓国の座布団など)が当たる『ビンゴゲーム』を準備して下さいました。ビンゴゲームは初めてというオモ二達も多かったですが、スタッフと一緒に楽しむ事ができました。もちろん、外れなしです。「故郷の春」の歌の披露もあり、孫のような青年達の歌声に皆さんご満悦でした。

最後に理事長から、オモ二達ひとりひとりにプレゼントが手渡され、オモ二達は敬老会の楽しいひと時を過ごされました。

(ハナの会スタッフ一同)

◆秋の遠足

10月26日(火)、27日(水)に、今年も秋の遠足に行ってきました。天気予報で雨は降らないと分かっていたものの、肌寒い天気が心配でした。オモ二達には暖かい服装で来て下さるようお願いをし、ハナの会では膝掛けなどをありったけ準備しました。

1日目は予定通りに「しあわせの村」に行きました。いつもの場所は風が冷たく、少し小高い

場所に移動して時折見せる暖かい日差しの中で、美味しいお弁当を頂きました。その後はいつもの様に、チャングの伴奏付きで思い思いの歌を楽しめました。

2日目はさらに寒くなる事が予想されたので、理事長が手配して下さった『海外移住と文化の交流センター』のお部屋をお借りすることになりました。暖かい部屋でお弁当を頂き、歌や踊りを楽しんだ後に今度は『神戸空港』見学へ出発。初めて行く方が多い神戸空港で飛び立つ飛行機を見た後に、理事長からの差し入れのお茶やコーヒーを飲んで一服。それぞれに送迎の車に乗り込み、帰路につきました。

なかなか外出の出来ない方が多いデイサービスでは、このような遠足などの行事が必要になっていきますが、年ごとに足腰が弱ってくるオモ二達の移動は困難になってきました。それでも「来て良かったわ。楽しかったわ」と言ってもらえると、「来年もまた」と思うスタッフ達です。

敬老会、遠足にご協力下さったボランティアの方々に、この場をお借りしてお礼を申し上げます。ありがとうございました。

(ハナの会スタッフ一同)

■■■ 今後の予定 ■■■

■ 研修会

12月11日(土) 13:30~15:00

「漢字指導の方法~甲骨文字を使って」

講師：関 登美子（日本語の不自由な児童生徒
サポーター、甲骨文字研究者

於 多文化子ども共育センター(moi)

■ 子どもと奨学生の年末お楽しみ会

12月28日(火) 14:30~

■ フィリピン、ベトナム、アメリカ、ブラジルの教育事情(1)

12月17日(金) 18:30~20:00

「ベトナムの教育事情と日本におけるベトナムにルーツを持つ子どもの状況」

講師：レファンバオカン（関西学院大学修士課程）